

## **Pancreas (Kimura et al., 2011) のアブストラクト和訳**

**タイトル:** 進行膵がん患者に対するゲムシタビンまたは S-1 を併用した樹状細胞ワクチン療法を基盤とした免疫療法の臨床及び免疫学的評価

**目的:** 本研究では、進行膵がん患者に対するゲムシタビンまたは S-1 を併用した樹状細胞ワクチン療法を基盤とした免疫療法の臨床及び免疫学的評価を行った。

**方法:** 手術不能で標準治療抵抗性の膵がん患者 49 名に対して、ゲムシタビンまたは S-1 を併用した樹状細胞ワクチン療法を基盤とした免疫療法〔樹状細胞ワクチン療法のみ、または樹状細胞ワクチン療法とリンホカイン活性化キラー細胞(LAK)療法を併用〕を実施した。

**結果:** 49 名のうち、2 名が完全寛解、5 名が部分寛解、10 名が進行停止だった。今回のコホート研究では生存期間の延長の可能性が高いことが示された(生存期間中央値、360 日)。樹状細胞ワクチン療法と化学療法の併用に加え LAK 療法を行った患者の生存期間は、LAK 療法を行わず化学療法の併用のみの患者と比較して延長していた。がん抗原特異的な細胞障害性 T 細胞の増加と制御性 T 細胞の減少は、数人の患者に見られたが、全生存期間の延長は、制御性 T 細胞の減少のみに関連性がある傾向がみられた。治療期間中にグレード 3 以上の有害事象はなかった。

**結論:** 化学療法を併用した樹状細胞ワクチン療法を基盤とした免疫療法は、標準治療抵抗性の進行膵がんに対して安全であり、効果的である可能性が示された。